



大阪プロバスクラブ

会報 第394号

2024年7月10日発行

Monthly Bulletin of

The Probus Club of Osaka

例会会場：ホテルモントレ大阪 06-6458-7111
 例会日：2022年7月より毎月第2水曜日 12時～14時
 ○創立2001（平成13）年7月9日創立記念式7月16日
 ○スポンサークラブ：箕面千里中央ロータリークラブ
 ○友好クラブ：箕面ロータリークラブ
 ○会長：山下恵司 ○幹事：川端崇且 Tel：090-2702-7212
 ○事務局：（幹事宅）〒562-0044 箕面市半町2-5-23
 ○会報担当：西宮富夫 pxi06603@nifty.com
 ○大阪プロバスクラブ会報：<http://osakapurob.exblog.jp/>
 ○全日本プロバス協議会：<https://www.all-japan-probus.com/>
 （R4年11月の第10回総会で決定された新体制）
 会長 田中信昭、幹事長 一瀬 明、会計 飯田富美子
 ○日本のプロバスクラブ・関西 Blog 版：
<http://probuscent.exblog.jp/>

R6年6月初旬～R6年7月初旬までの更新分（順不同）

クラブ	会報	記事一部
東京八王子	プロバスだより第343号	卓話「葉っぱについて」内山雅之会員、全日本プロバス協議会（一瀬幹事長）、「写真の日の逸話」永井昌平会員、ハッピーコイン、他
姫路南（二水会）	会報123号	市政出前講座「文学から見た播磨」姫路文学館館長重公美様、「石橋湛山の志」長谷川一彦会員、「木質バイオエネルギーは日本を救う？」藤原関夫会員、他
神戸北	6年7月例会・総会のご案内	令和6年度総会「6年度役員案、6年度活動計画、6年度予算案、会則・最速案」の確認、「ひとこと」中井文代会員、他
大阪	会報第393号	卓話「①今の円安をどう思うか、②メルトダウンを食い止めた男」野村正勝（日本工学アカデミー会員、大阪大学名誉教授）、他

今回 第395回 通常例会 2024年7月10日（水）

会場：ホテルモントレ大阪 12：00～14：00

- 大阪プロバスの歌（作詞：渡辺 孟 補詩：田村徳郎）
- ① プロバスクラブへ集まろう 気の合う仲間とお昼時
元気に歌おう会の歌 第二の人生また楽し
- ② プロバスクラブに集まって 優しく気軽に話そうよ
見せたい自慢の得意技 遊びのプランもまた楽し
- ③ プロバスクラブに集まれば 高まる奉仕の心意気
世界に広がる和の願い 明日も愉快地生き抜こう
- 『海』（作詞：林柳波、作曲：井上武士）

うみはひろいな おおきいな
 つきはのぼるし ひはしずむ
 うみはおおなみ あおいなみ
 ゆれてどこまで つづくやら
 うみにおふねを うかばせて
 いってみたいいな よそのくに

前回 第394回 通常例会 2024年6月12日（水）

会場：ホテルモントレ大阪 12：00～14：00

◎通常例会

- 司会進行：永田慎一会員
- ソング：吉川栄子会員 ●『カタツムリ』
- 新入会員挨拶：浅井良佑会員
- 食事タイム 乾杯：田中浩三会員
- ・ワイン名：マス・ド・ジャニーニ ル・タン・デ・ジタン シラー 2022
- Mas De Janiny Le Temps des Gitans Syrah 2022



（ワインラベル）



（生産者マス・ド・ジャニーニ）

・ワインショップからのメッセージ

ワインを造っている（ブドウを踏んでいる）ところを描いたラベルです。スパイシーな香りの中にほんのりロースト香があり、フルーティで飲みやすい味わい。暑い日は少し冷やしても美味しいです！！

・生産地：ラングドック

（以下、文はワインショップ Dragee 記事ラングドック・ルーシオンより）

地中海沿岸に広がるラングドック・ルーシオン地方。産地のカテゴリ分けとしては、ラングドック地方とルーシオン地方を一括りにまとめて呼ばれるのが一般的。フランス最大のワイン産地として知られますが、その大部分をラングドックの低価格帯ワインが占めるのが現状。



（画像引用元：JOYLAB「フランスワインの産地と地図」）

同じフランスのワイン産地でありながらも、ボルドーやブルゴーニュをはじめとした高級路線の地域と比べれば、ターゲットの消費者やワインの方向性など、あらゆる点において異なる道を歩んでいる地域と言えるでしょう。

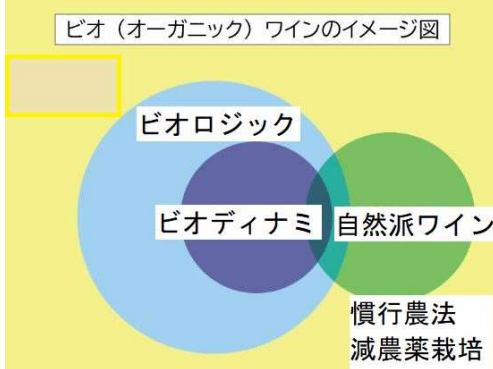
・生産者：マス・ド・ジャニーニ

（以下の文及び前掲生産者兄弟画像はナチュラルワイン・自然派ワイン Alby Select Wine 生産者についてより引用）

ラングドックの中心モンペリエから西へ20km、ニームとベジエの間にある人口約700人のサン・ボジル・ド・

ラ・シルビー村のワイナリー。南仏の輝く太陽のもとで家族経営を行うマス・ド・ジャニーニは、1980年代の終わりにパスカル（上記写真左）が父親からブドウ畑を引き継ぎ、ワイン造りに加わり**ビオロジック栽培**を始めました。

（注：ビオロジック（以下、ビオ）栽培とは、ブドウ栽培において農薬、化学薬品、化学肥料や除草剤等を使わない栽培法を言います。ビオワインとはビオ栽培されたブドウから造られたワインの事です。）



（以上、文・画像ともポイントヴィーニョ「ビオ（オーガニック）ワイン」より引用）

○山下恵司会長挨拶：今年度も終わりますが、新入会員3名となりました。今後もこまめに声がけしたいと思います。

○幹事報告：例会後新入会員歓迎会を開催。次回7月例会で会費徴収させていただきます。年会費+例会費×6=4万円となります。

○出席報告：委員長より会員12名との報告。

○西田隆昭副会長：次年度日程表配布と説明あり。

○OH-BOX:担当委員長より4名13,000円との報告あり。

★山下恵司会員：本年度最終例会、皆様お世話になりました。

★川端崇且会員：浅井さん入会ありがとうございます。

★西宮富夫会員：年度末です。次年度もよろしく。

★野村尚子会員：役員、理事のみな様1年間お疲れさまでした。

◎卓話「1. “梅雨をかるやかに過ごす” 記事紹介、2. 童話” 雨がすき” 紹介」吉川栄子会員

（会報担当より：今回の卓話では初めに「梅雨をかるやかに過ごす」記事の紹介があり、次に童話「雨が好き」の朗読がありました。そこで、記事紹介と童話紹介としてまとめました。なお画像は該当記事の画像を抜粋引用使用させていただきました。）

1. 「梅雨をかるやかに過ごす」記事紹介

（以下、文・画像は潮出版社パンプキン6より抜粋引用）



●快適環境づくり

1. 湿気・カビ対策

・お風呂と冷蔵庫のカビ対策

浴室は入浴後に乾いた布で拭くか、高温（50～60度）のシャワーをかけるとカビ予防に。カビは0度でも増殖するので冷蔵庫内外もアルコール消毒液で掃除と除菌を。

・雨の日も1日5分の換気タイム

1回5分、一日数回は部屋の窓を開けましょう。1カ所窓を開けて換気扇をつけるか、サーキュレーターを開けた窓に向けて回し、空気を循環させます。



3. 臭い（2. 家具の配置は略）

・生ごみにアルコールスプレー

生ごみ自体にアルコールスプレーを吹きかけ、まとめた袋にもスプレーしてから捨てましょう。

・排水口が臭う

台所の排水口は雑菌が繁殖しやすいので清潔に保ち、臭いの原因を除去。シンクに湯を張って酸素系漂白剤を溶かし、キッチン用品を浸けておきます。その後一気にためたお湯を流すと排水口の汚れものぞくことができます。

4. 雨でも洗濯を

・梅雨こそこまめな洗濯

梅雨時の洗濯の悩みで多いのが部屋干しの臭い。雨の日が続くとつい「まとめて洗濯」になりがちですがこんな時こそこまめに洗濯を。

5時間以上濡れたままにすると爆発的に雑菌が増殖し、その後何度か洗っても臭いは完全には撮れなくなってしまふ。この時期は洗剤に酸素系漂白剤をプラスすると除菌力アップに効果的です。

・干し方・乾かし方

通気性のよいところで早く乾かすことを心がけます。折り畳み式の物干しスタンドは部屋の内外で便利です。

5. 服や小物

・雨の日は服や小物に一工夫

傘や靴、小物に撥水スプレーをすると傷みにくくなります。衣類は外出から帰ったら”着た服にブラッシング”を習慣にするとカビや虫食いの予防に。白いシャツなどは特に黄ばみやすいので酸素系漂白剤にしっかり漬けて落として汚れを落としましょう。

6. 梅雨のご飯

・香辛料と汁物を活用

香辛料を使った料理は食中毒予防におすすめ。ニンニク、ショウガ、大葉、ミョウガなどを常備し、豆腐や肉や魚などに添えたり。香りで食欲も湧き、たんぱく質も取れます。



エアコンや冷たい料理で体が冷えやすいので、野菜入りスープや味噌汁などで体を温めましょう。

・食中毒には気を付けて

肉や魚は野菜と分けて準備。まな板は牛乳パックを敷くのも○。洗わずに熱湯をかけるのはやめて、丁寧に洗って乾かしアルコール消毒します。

以上

2. 雨が好き（あらすじの紹介）

第50回 JXTG 童話賞一般の部最優秀賞（作者：宮田一平）（以下、あらすじと画像は第50回 JXTG 童話賞作品集より抜粋引用した。）

雨が降ってきました。花はお父さんを駅まで迎えることになりました。迎えの時間になって花の赤い傘とお父さんの黒い傘を持って駅へ行きました。

駅で同じ保育園に一緒に通った達夫に会いました。達夫は傘を持ってなかったの、花は自分の赤い傘を差しだして「これを使って」といいました。自分はお父さんの傘に入れてもらうつもりでした。

それから1年ぐらいたったある日、花はとつぜんの雨に降られて、ケーキ屋の店先に立っていると、目の前にとつぜん青い傘の達夫が立っていました。達夫は花に傘を差しだして「花、これ使え」、「僕は走って帰る」といいました。



花は達夫に自分を家まで送ってほしいと頼みました。花は「私、雨の日って嫌いじゃないの」「雨の音って何か静かだし、みんなが家の中でゆっくりしているのも好きだし・・・」「雨の日に傘持っていないと、普段なかなか



か会えない人と会えたり話せたりするし・・・。」

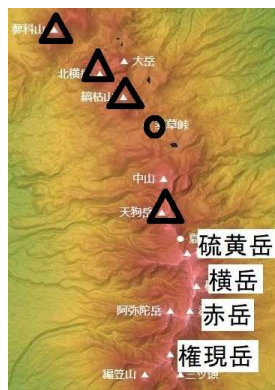
二人は花の家の前まで来た。花は笑顔で達夫に手を振った。達夫は花に向かって小さく「おれも雨の日、結構好きかも・・・。」以上

◎近況報告「2泊3日で八ヶ岳へ行ってきました」笠松幸一会員

（以下、文・山写真とも笠松幸一会員提供。なお、提供写真や山小屋で過ごした様子などページの関係もあり、一部やむを得ず省略させていただきました。）

1. 八ヶ岳連峰

長野県中央部から山梨県との県境沿いに南北に連なる八ヶ岳連峰。3000mを超える山はないけれど、北アルプス（飛騨山脈）・南アルプス（赤石山脈）・中央アルプス（木曾山脈）に次ぐ高さを持つ山脈である。南から編笠山—西岳—権現岳—赤岳—阿弥陀岳—横岳—硫黄岳—天狗岳—（麦草峠）—縞枯山—北横岳—蓼科山と南北につながり、時間と体力さえあれば全山縦走も僕たち素人レベルでも夢見ること



八ヶ岳火山列地形図
（画像：Wikipediaより引用）

ができる山脈である。

八ヶ岳という名前の山はなく男性的な岩山がつながる権現岳（2715m）—赤岳（2899m）—横岳（2830m）—硫黄岳（2760m）の集合体を八ヶ岳というようだ。（中略）

2. 八ヶ岳山行2泊3日

6月7日から9日まで山仲間6人で富士見高原から西岳—権現岳—赤岳—横岳—硫黄岳—赤岳—美濃戸口を2泊3日で縦走。（中略）

6月7日6時に奈良を出発。6時間かけて富士見高原に到着。（中略）樹林帯の中を麓の



Google Mapより作成

別荘の住人が散歩される緩やかな山道が西岳山頂まで続く。初日の足慣らしには最適の道だ。3時間半ほどで西岳（2398m）に登頂。東には編笠山、北東には明日歩く権現・赤岳を望むことができる。

今日の宿は青年小屋。西岳から小屋の尾根道を1時間弱。小屋手前にある水場「乙女の水」で明日の水を補給。権現岳西斜面から流れ出て釜無川、甲府盆地で笛吹川と合流して富士川になる。ここは富士川源流の一つと一人で感激する。青年小屋は「山の居酒屋」という評判。10種類ほどの日本酒を楽しめるが、僕が飲みたかった焼酎・ハイボールなどがなく、今回アルコールを持参しなかったことを大後悔。焼酎もしくはウイスキーを持参することは必須だ。残念。（中略）

6月8日。今回の山行のハイライトだ。天気は快晴。5時半朝食、6時10分出発。まずは東西ギボシを超えて権現岳への登頂を目指す。急な山道を登り、一息ついて振り返ると南アルプスの名峰仙丈・甲斐駒・北岳・鳳凰三山（西から）、少し東には日本一の富士山が微笑みかけてくれる（写真左）。あまりのうれしさに「やった。」と声のでてしまう。

権現岳（2715m）頂上にはオツパイのような巨岩がある（写真右）。僕たち6人のパーティーはこの巨岩に少しだけよじ登って記念写真を撮ったが、少し遅れてやってきた若者たちはオツパイの乳房の上でポーズをとっている。負けた。（写真：権現岳頂上からの富士山・頂上の巨岩）



（富士山が！）



（オツパイのような巨岩）

権現岳からは空中の廊下、山嶺（尾根）歩きだ。ここからは鎖・梯子など「命の綱」の助けを借りながら歩く。（鎖や梯子のような補助がなければ正直怖くて歩けない。）赤岳までの途中にキレット小屋がある。穂高連峰の大キレットを連想させられる。どれだけ怖いのだろうか。「心配」「期待」したが、権現岳からの下りの怖さに麻痺したのか、いつの間にか通過してしまった。しかしキ

レットを過ぎて赤岳南斜面の登りに取り掛かったときの迫力と恐怖感とはばや写真では表現できないくらいのものである。大怪獣ゴジラを目の前にして頭のテッペンまで登れという感覚だ。(ポーっとしてしまい写真を撮り忘れる。キレットからとった赤岳・阿弥陀岳の写真をかわりに) (写真：赤岳・阿弥陀岳)



距離的には2キロ程の行程を標準山行時間2時間(僕たちのパーティーは3時間)かけてよじ登る。過去に20-30mの岩場を登ったことはあるけれど、400mの標高差の岩場を歩くのは初めてで心が震える。岩は100万年前の火山活動で噴火した安山岩(鉄分が多く赤く見える)とのことだが、風化のため不安定。風化して崩れた岩がおおく、足場や両手でつかんで体をささえるポイントを見つけることは簡単なのだが、岩が安定しているのかどうかを2度確認したうえで3点のポイントを確実に保持して登る。目標は白のペンキで描かれている白の○や→。必死で登っているとアドレナリンが膨大にでているのだろう、怖さも疲れも感じない。ランニング・ハインのような感じなのだろうか(写真)。小屋を出発して8時間。ついに八ヶ岳最高峰赤岳(2899m)に登頂。万歳。

(写真：赤岳頂上)



赤岳山頂から今日の宿「赤岳天望荘」へ。普段であれば心も体もすくむような岩の下り坂を慎重に下る。赤岳の怖い登りで心が麻痺して怖さを感じない分慎重にと念じながら急斜面を下る。(中略)

最終日3日目は当初の予報では晴れだったが、「曇りのち雨」の予報に変わる。5時15分の朝食を頂き、6時に小屋を出発。赤岳がゴジラの胴体とすると今日歩く横岳はゴジラのしっぽだ。南北につながる岩峰群の総称が横岳で、どこが横岳頂上なのかは看板を見て初めてわかる。それぞれの岩峰の先がゴジラのしっぽにある剣のような形相。一つ一つに鎖・梯子などの連続。アドレナリン出まくりで3日目の疲れなど感じている暇がない。岩の隙間に小さな高山植物を見ることができる。この点は

赤岳とは違い少し山行が穏やかになっているのかと思うが、気は抜けない。

横岳の岩峰群を抜けると一見穏やかな山容の硫黄岳になる。この山も本来の姿は赤岳・横岳のように岩峰(火山岩)が尖った山頂を形作っていたのだが、山頂が爆裂で吹っ飛び台形の穏やかな形に変化。しかし爆裂して吹っ飛んだ部分は爆裂火口になっており、下手に火口に近づくと足場が崩れて火口へ滑落するという危険極まりない山のようなだ。

(写真：硫黄岳)



硫黄岳頂上から赤岳—横岳の山容を一望することができ、この山を縦走してきたのだという誇りのような気持ちがあふれ出すとともに「よく無事でここまで歩いてきたものだ。」と感謝の祈りを山々に捧げる。

(写真：赤岳—横岳の山容)



硫黄岳から赤岳鉱泉小屋を經由して美濃戸口(南八ヶ岳への一番ポピュラーな登山口)へ下山する。赤岳鉱泉小屋はその名の通りお風呂もあり、この小屋をベースにして阿弥陀岳—中岳—赤岳—横岳—硫黄岳を一日で周回することもできる。近い将来もう一度この地に戻ってこようと思わせてくれる小屋である。

赤岳鉱泉小屋から1時間山道を下りると後は林道になる。初日に車を運び込んだ駐車場まで2時間林道を疲れた脚を引きずりながら歩く。この最後の林道歩きが本当に疲れるが無事に辿り着いたときは「これで帰れる。」という喜びが一挙に爆発する。6人のパーティー全員で「ヤッター。」とハイタッチ。山は計画し、登頂し、下山したときそれぞれに喜びを分かち合う。どれだけしんどくても楽しい。

以上

次回 第396回 ビアパーティ 2024年8月21日(水)
会場：ホテルモントレ大阪 16:00~19:00